

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2014年02月 | トップ | 2014年04月 》

検索

2014年03月24日(月)

原子力災害について和歌山県危機管理課と話し合いました

アーカイブ

「脱原発わかやま」では3月20日(木)、原子力災害時の避難計画の和歌山県や関西広域連合の対応について、県の行政担当者と話し合を行いました。

これに先立ち、1月27日付「再稼働反対と原子力災害時の避難に関する要望書」を提出し、県の説明と質問の場を求めていましたが、最初予定されていた日は和歌山ではめずらしい大雪で交通マヒ、その後県議会期間を避けて、今回まで延期になっていたものです。

県庁南別館の危機管理課会議室にて、2時～約1時間半。
出席者は、県総務部・危機管理局・危機管理課から課長の土井安児さん以下、土井智晴さん、前芝洋一さんの3名、「脱原発わかやま」から白浜町、田辺市、有田川町、和歌山市在住の計6名でした。



まず、県から原子力防災についての進捗状況の説明がありました。13年3月頃から計画着手、関西広域連合のシミュレーションを待ち、県独自の素案も検討してきたが公表には至っていないこと。8月には地域防災会議が開催されるので、そこには織り込みたい、とのことでした。しかしやはり原子力防災は専門的な知識や技術が必要で、財政的にも県行政だけで取り組むのはむずかしい、という話でした。

和歌山県は福井の原発からは150キロメートル離れており、30キロ圏の重点区域(UPZ)にはないので、国の対応策にも格段の差があること、例えば放射能の影響を予測するSPEEDI の設置も対象外だそうです。ちなみに熊取の京大原子炉は、研究用原子炉で小規模なので重点区域は半径500mに限られ和歌山には及ばないとのこと。

福井から離れているとはいえ、風向きによっては汚染の地図は変わってくる。福島から200キロ離れた千葉県などでホットスポットが現れた例もある、といった話を交わしました。放射線量を測るモニタリングポストについては、県下で4か所(和歌山市、橋本市、田辺市、新宮市)設置されているということです。

事故のとき私たち住民にはどのように伝えられるのか、その情報伝達については、非常に関心のあるところ。伝達ルートは、国から関西広域連合及び県へ。事業者(関西電力)からも直接に県へ連絡がある。そこから県は防災行政無線で市町村に伝達するようになっているということです。

福島第一原発事故では、いったい何から避難するのかもわからず身一つで家をとび出しそのまま帰れなくなってしまった住民の悔恨の証言がいくつもあることを省みなければならない。事故当時そして基本的には今日までずっと続く政府、事業者、マスコミの情報隠しを見せ続けられて、**国民は徹底的に不信感を抱いている**。もしくはあきらめている。信頼の回復には、正しい情報を速やかに住民が知りうるよう平時から率直な情報開示が必要だと思いました。

福井県で原発事故が起こった場合の避難計画は、和歌山県では避難者受け入れが当面の課題となりますが、十分な態勢とはいえません。一方、30キロ圏内の自治体では関西広域連合と一緒に広域避難のガイドライン作りが行われています。
:グリーン・アクション等3団体のリーフレット参照

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/plan_refug_leaf_140206.pdf

このガイドラインについても、脱原発がわからぬ問題点が多い指摘されました。たとえば、自家用車で避難した場合、途方もない渋滞が起こること(3月5日NHKクローズアップ現代でも検証)。バスでのピストン輸送も駐車スペースや運転手の被ばく限度を守れないなどがあり、具体化とはほど遠い。体に付着した放射性物質を検査するスクリーニングの方法も避難中継所も決まっていない。さらに問題なのは、病人や乳幼児、障がい者などの援護や支援の必要な人の避難について、移動手段も避難先もまったく目処が立っていない。福島原発事故では施設の入所者の避難が困難を極め、多数の「震災関連死」を招いたではないか。このような現状では**避難計画の実効性は無く机上の空論に等しい**、と言わざるを得ません。

原子力規制委員会の田中俊一委員長は、3月10日の参議院予算委員会で、再稼働と防災計画は車の両輪だが、規制委員会の所管は再稼働審査だ、防災・避難は所管外と答弁。住民の安全とか被ばくせずに避難できるかといった問題は、自治体の仕事、国は支援するだけ、ということです。それで住民の安全安心が本当に守れるのでしょうか？

私たちのいいたいことは、**原子炉が安全であること、避難計画が実効性のあること。この2点が確認されないまま原発再稼働などをもってのほか**、ということです。現在、それらが担保されない以上、和歌山県知事として「再稼働反対」の意思表示をしてほしい、と要望しました。

最後に、和歌山県知事にも是非とも福島県に行かれて、福島県民の状況を見てきていただきたい旨も要望しておきました。

2014-03-24 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2014年03月12日(水)

原発がこわい女たちの会ニュース88号発行

3月11日、「原発がこわい女たちの会ニュース」88号を発行しました。

【CONTENTS】

- ・女の会結成27年のつどい お知らせ
 - ・福島事故から3年・私たちは何を学んだのか?
 - ・報告 さよなら原発3.9関西行動に参加してきました
 - ・報告 「風力発電の被害を考える」集まりに出席して
 - ・お知らせ ドイツのテレビで放映「フクシマの嘘」YouTubeで見られます
 - ・お知らせ 福井県で原発事故が起これば☆和歌山県との話し合いがあります
 - ・訃報 畑木道子さんが亡くなりました
 - ・後記
- (このうち「風力発電」については3月4日ブログ掲載済みです)

フクシマから3年・チェルノブイリから28年 —女の会結成27年のつどい—

今中哲二氏(京大原子炉実験所助教)講演会

放射能汚染への向き合い方

福島県飯館村の初期外部被曝調査を終えて

- 4月20日(日)13:30~16:00
- ビック愛9階A会議室
- 参加費 無料



福島第一原発事故から1年目の2012年3月10日「原発がこわい女たちの会結成25年のつどい」講演後の質問に答えている今中哲二さん

福島事故から3年・私たちは何を学んだのか?

—新たな安全神話にだまされないように—

★政府の非常事態宣言は解除されていません。

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)

そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)

コメントありがとう by sora (12/05)

突然すみません。東京 by 里美(11/22)

10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)

starさんコメントあり by sora (09/14)

このブログを読むまで by star(09/13)

こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)

現在稼働している大飯 by star(04/09)

廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

<		2014年03月							>	
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
						1				
2	3	4	5	6	7	8				
9	10	11	12	13	14	15				
16	17	18	19	20	21	22				
23	24	25	26	27	28	29				
30	31									

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発

美浜3号も廃炉に！ 11・13

琵琶湖集会(11/15)

汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)

原発がこわい女たちの会

ニュース99号発行(10/12)

高速増殖炉もんじゅ廃炉へ

(09/27)

老朽原発・美浜3号機は廃炉

に！パブコメを出そう(08/28)

ピースボートで韓国古里(コ

リ)原発を見学してきました

(08/21)

熊本地震の経験から原発の

耐震性見直しを要求し、25

団体で共同声明を出しまし

た(07/22)

老朽原発・関西広域連合へ

要望書と和歌山県との話し

合い(07/17)

原発のない社会を投票で示

そう！(07/05)

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

RSS

ID:

PASS:

サイト管理者

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

★人々の被ばくと放射能汚染は増え続けています。
メルトダウンした1～3号炉は何がどうなっているか分からない状態です。
水で冷やし続けるしか手がないのです。
毎日2億4000万ベクレル放射性物質を環境中に放出し、
汚染水の海洋放出は止められません。

★事故収束作業に携る被曝労働者のことは詳しく分かりません。

☆甲状腺がん74人に増加。(8歳～21歳)
鈴木氏は『「甲状腺検査」の実施状況について』の平成23～25年度の検査数値など、データを列挙した。
「対象者33万3409人のうち、26万9354人が受診。甲状腺がんの悪性ないし悪性の疑いは、合計75例(手術34例、良性結節1例、乳頭癌32例、低分化癌疑い1例)、男性28例 女性47例、年齢は8～21歳、震災当時年齢6～18歳、と報告した。(数値は平成25年12月31日現在)
質疑応答になり、専門的な質問がいくつか寄せられた。ある委員が「被曝実効線量と甲状腺がんとの因果関係がないことがわかった」と述べると、床次委員は「基本調査の実効線量は(セシウムの)外部被曝の数値だが、甲状腺がんは、放射性ヨウ素や内部被曝の相関なので、プルームの移動などと対照すれば、もっと被曝との因果関係を確かめられる」と指摘した。
福島県 県民健康管理検討委員会(26年2月7日)からの一部です。詳しく知りたい方は検索して下さい。

★この事故で東電も誰も責任を取っていません。

ドイツの公共第2テレビで2月下旬に放映された映像がYouTubeで見れます。

「フクシマの嘘 其の貳(隠ぺい・詭弁・脅迫)」29分

安部首相の「みなさんに保証しましょう 事故はコントロールされております」の宣言がどこまで信用できるのか、われわれは調べることにした。(ヨハネス・ハノ監督)
一見する価値あります。

<http://www.youtube.com/watch?v=8wCehe0iaKc#t=1452>

(この情報は3月10日のメルマガ金原で知りました。)

報告 2014/3/9

さよなら原発3.9関西行動に参加して来ました。

大阪市北区民センター&扇町公園にて

北区民センターでは午前中小出裕章氏の「子どもたちを放射能から守るために」の講演があり、700席は事前に完売していました。私は扇町公園での本集会和その後のデモで一番短いコース「天六・梅田コース」2*に参加して来ました。

この集会の少し前に2年ぶりに倉田洋子さんから電話が入り「3月9日のデモに参加したい」と云う話したので扇町公園で落ち合う事にしました。

倉田さんは和歌山県の湯浅でお住まいの時、夜行バスで経産省前の「原発いらない福島の人たちの2011年10月27日からの座り込みに参加して「女たちの会の77号のニュース」に報告を書いてくれた人です。しかし2012年2月に倒れて和歌山医大に入院、その後お姉さんと大阪で暮らしていました。リハビリ中と聞いていました。

右は本集会中の前で何が話されているか聞きとり難い状態で、同じデモコースの人たちと並んでいるところです。



倉田洋子さん・松浦雅代・美浜の会の小山英之さん

このあと、倉田洋子さんはリタイヤせず全コース歩きました。杖を持ちながら。
流れ解散の天六・梅田付近では喫茶店がなく「すき家」に入りお互いにリタイヤしないで歩けたお祝いしました。私と松浦は難波5時15分発のサザンで帰って来ました。

☆☆福井県で原発事故が起これば☆☆☆

和歌山県危機管理課との原子力防災についての話し合いがあります。(脱原発わかやまとして)

2月14日に計画されていたのですが大雪で中止になりました。

○日時 3月20日(木)14:00～

○場所 和歌山県庁南別館「危機管理課」

一般の駐車場はありませんので本館の駐車場を利用して下さい。
○集合場所と時間は南別館の1階に13:50分です。
○誰でも参加できます。

畑木道子さんが亡くなりました。

享年102歳でした。

日高の「原発に反対する女の会」の代表のお一人でした。(もう一人の鈴木静枝さんはお元気です)
私たちが日高原発の経過を教えてくださいました。最初にお伺いしたのは阿尾の畑木さんのお宅でした。
畑木さんは阿尾の比井崎漁協に勤めている時に原発の問題が持ち上がりました。私たちがお会いした時は阿尾の女の人たちはとても元気で、年齢など感じさせませんでした。

その当時、阿尾地区約200軒、最後の最後まで、区民総会で原発賛否の決をとらせないように働いた女たち、漁協の廃案総会時、総会会場まで女の会独自で、バスをチャーターしていた。(畑木さんにあんなも乗って行きなと言われ、私もこのバスに乗った)総会の休憩時間に推進派理事を取り囲み説得した女たち、日高の漁師の闘いと共に私には忘れられない阿尾の女たちの闘いでした。

畑木さんが亡くなったと知らせてくれた浜一己さんと松浦の3人で3月7日阿尾のお寺で行われたお通夜に行き来ました。そして方杭から阿尾に行く道すがら浜さんは、わしも亡くなった事、後から知った人が多い。と、そんな話になった。日高原発からの長い時間の経過を感じました。

家に帰って1986年発行「バラが枯れる時」の私を書いた記事を読み直しました。「建設候補地19年・潮風の中で」6人の阿尾の女の人の写真があります。当時、この人たちは誹謗中傷と、毎日、関電の立地部がウロウロする中、反対を貫き通して来た人々です。そして、畑木さんが亡くなられて、全員世界されたのだと、6人の写真を見ながら認識せざるを得ませんでした。

私はこの人たちに随分いろんな事を教えられたように思います。
私は阿尾の港で毎年開催されている「クエフェア」に行った時は、直ぐ近くの畑木さんの家を訪ねていました。しかし、この3年間はお会いしていませんでした。
畑木さんは自宅で娘さんと暮らしていて、娘さんと一緒なので喜んでいました。そのことをお通夜の席で娘さんに伝えると「お母さん娘に世話して貰って結構な事やのう」と言う畑木さん「猫灰だらけや」と言っただけ聞いて不謹慎を通り越して笑ってしまいました。畑木さんらしいと思いました。

畑木道子さん、田口こいとさん、坂田三四子さん、尾崎幸恵さん、初井美代子、佐々木ハナ子さん、本当にありがとうございました。
6人一緒になってしまいました。御冥福をお祈りします。

(記)

畑木さんが亡くなられて、年齢を逆算すると、私が初めてお会いした時は70歳を過ぎていた事に初めて気が付いたのです。テキパキと行動していて、「人の云う事、気にらしてたらあかん」と私の背中を押してくれた人でした。私は今年2月で70歳になりました。自分でも信じられない年になりました。これからどう生きて行こうかと考えている時の畑木さんの訃報でした。
福島県の事故から3年です。

(松浦雅代)

2014-03-12 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2014年03月04日(火)

風力発電の被害を考える集まりに出席して

3月1日、ボランティアサロン(フォルテ・ワジマ)にて「風力発電の被害を考える会・わかやま」

http://blog.livedoor.jp/windfarm_wakayama/

の総会および自作DVDの一般公開が催された。

当日は、被害者を含む会員のほか、一般市民、遠くは北海道や、神戸からの参加もあり、公害とりわけ低周波音問題第一人者の汐見文隆医師も車いすで参加されて、熱気にあふれた集まりであった。



この会は、2012年11月に和歌山で発足した。

被害者の声を聞く会に始まり、低周波音被害についての学習会、当面する地域の議会傍聴、行政への働きかけなどの活動を行ってきた。この問題は、まだ一般化しているとはいえ、先達の情報を頼りに手探り状態で集めて回るといったものだった。

武田恵世さんの講演は、論点を整理するのに大変役立った(※ 武田さんの著書『風力発電の不都合な真実』、アットワークス発行も参考になる)。被害者の一人である由良守生議員は由良町議会でこの間5回の一般質問を行い、傍聴させてもらった。その他、県議会傍聴や県知事への申し入れなども行ってきた。また現地で風車の真下に立って、その巨大さと羽根の回転するさまも体感した。

低周波音はふつつ人間の耳には聴き取れないので外部からの訪問者にはわからない。しかし、現地で四六時中暮らさざるをえない人たちにとっては、地獄の苦しみだ。症状は地域住民一様に現れるのではなく個人差があるが、少なくともいったん被害を身体に感知してしまうと、頭痛、耳鳴り、めまい、イライラ、不眠などに悩まされ続け、はては自宅に住むことすら出来なくなってしまう。

この症状は、風車設置後に始まり、運転が止まると軽減し、よその土地へ出かけたときにはおさまる。つまり汐見医師も言われるように、外因性であるのは明らかだ。にもかかわらず風車に原因があるとは認知されずに「そんな苦情を言うのはあなただけ」と言われてさらに苦しまねばならない。無辜の民が差別と偏見のもとに長年さらされてきた水俣病と似ている。

この風力発電の被害の実態をもっと多くの人たちに知ってもらいたいと、当会ではDVD「風力発電の羽根の下で」を作成した。和歌山県下の風力発電の歴史と現状をたどりながら、近辺の人たちがどのような健康被害に悩まされ、かつどのように闘ってきたか、入念に取材した力作である。とくに被害者がご自身の発症のいきさつや周囲とのあつれきを、当事者として証言しておられる部分は圧巻である。その一人、松尾孝美さんは、素顔と本名、家庭のことを明かしての出演に抵抗はあったが、「そうすることが多くの人に伝えられる方法なんだと決断した」と上映の後で語られ、その強靱な思いには感じ入った。もちろんお顔を出されない方もあったが、それはそれで、周囲とのあつれきの根深さを認識させるものだった。一人でも多くの人たちにDVDを観てもらって風力発電の問題に関心が集まることをねがっている。

※ ご希望の方にはお送りします。送料負担とカンパはお願したいとのことです。



ところで、原発に反対する私たち「女の会」が、**原発の代替エネルギーとして有力視される風力発電に反対するのはおかしいではないか？**と感じておられる方もあるかもしれない。しかし目の前の被害者の苦しみや全国各地の被害情報、風力発電の「不都合な真実」を知るにつれ、反対しない方がおかしいと思うのだ。私たちはうかつに騙されたくないという、かつて本ブログに記した立場と基本的に同じである。

原発は地球温暖化をふせぐクリーンなエネルギーであると持てはやされ、国民はそれを信じているうちに、こっぴどく痛い目に遭ってしまった。補助金交付の国家プロジェクトとして推進される風力発電についても、刷り込みから脱して、本当のことを知りたい。現に健康被害の問題が顕在しているという実情を踏まえて。(2012年11月21日)

このたび公表された政府の「エネルギー基本計画(案)」を一読したが、風力発電を再生可能エネルギーとして、導入加速に向けた取組を強化する(p.35)とあり、送電網の改革や大型蓄電池の開発、洋上風力発電の導入など技術開発が語られ、「環境アセスメントの迅速化」の文言もある。**風力発電による健康被害問題については一片の言及もない**。もともと今後の洋上風力発電が強調されているのは、陸上で被害の存在を示唆するものかも。

この「エネルギー基本計画」は原発推進のスタンスが強調されるだけでなく、全体が問題だらけ。正月休みに苦労して提出したパブリックコメントの扱いは、どうなったのかな？こんな一方的な作文が安倍内閣のもとで、基本計画として閣議決定されたのでは、たまったものではない。

※日弁連(日本弁護士連合会)では、2013年12月に低周波音被害について意見を取りまとめ、医学的な調査・研究と規制基準を求める意見書を国に提出した。たいへん参考になると思う。

http://www.nichibenren.or.jp/activity/document/opinion/year/2013/131220_3.html

(sora)

2014-03-04 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)